

2023年度

霞が関インターンシップ

霞が関公共政策大学院生インターンシップ
霞が関法科大学院生インターンシップ

この夏、霞が関を
体験しませんか!?

対象：公共政策大学院生及び法科大学院生

期間：8月～9月

(このうち各府省が定める期間(5日間以上))

実施機関：参加各府省



2022年度霞が関インターンシップ体験談

(霞が関インターンシップ報告書より抜粋・一部修正)

公共政策大学院生インターンシップ

(Aさん) 講義、実習、会議への参加等を通じて、政策や具体的な業務内容について理解が深まった。また、政策のみならず組織風土や職場環境についても知ることができた。

(Bさん) 政策提言を行うだけでなく、様々なバックグラウンドを持つ職員から話を聞く機会があった。若手から長く働いている職員まで話を聞くことができ、今後の就職活動に大変参考になった。

(Cさん) インターネットでは知り得ない実際の職務内容を知ることができた。また、インターン先と自身の専門分野が同じだったため、実務と学問両面の視点を得ることができた。

(Dさん) これまで参加したインターンシップより、職員と関わる機会が多く、実際の現場を理解することができた。

法科大学院生インターンシップ

(Eさん) 法律改正に係る作業では、法科大学院において学んでいる技術を援用する部分が多く、法曹の思考は行政にも活かすことができると確信できた。また、新制度の構築に当たっては複数の弁護士が招聘され、実務者的視点が法を作る段階において重視されていることを肌で感じることもできた。

(Fさん) 法律の運用面のみから司法制度を見ていたが、法律や制度を作る面から司法制度を見て、全く異なる視点が必要であることを認識できた。裁判が全てではなく、その先の支援や援助を得ることの難しさを実際に活躍中の職員から教えてもらい、紛争解決のためにはさらに広い視野が必要だと実感した。

(Gさん) 実習先の職員に加え、多くの関係者にも話を聞く機会があり、大変参考になった。また、実際に業務が行われている場所に行くことで、具体的なイメージを持つことができた。

Q1 参加してよかった点はどのようなことですか

<公共政策大学院>

A 何より生身の職員からじっくりと話を聞いたことが良かった。正直、インターンシップに参加するまでは、働き方や仕事のやりがいについて大きな不安があったが、根掘り葉掘り聞くことができ、仕事の過酷さの程度が想定を下回っていることも分かり、何より良さが大変よく分かった。

A 課題研究では、なぜこれが必要なのか、なぜ現状ではうまくいっていないのか要因を深掘りし、新たな政策を提言する際の難しさと楽しさを学んだ。発表に対しては、丁寧なフィードバックがあり、実際に政策を考え実行に移すためには様々な視点が必要であり、他の社会課題とつなげることも重要だと学んだ。

<法科大学院>

A ディスカッションでは、1つの事実の捉え方がそれぞれに異なっていたり、理想の処遇について認識を擦り合わせていく過程が難しいと思う反面、自分の主張を根拠づけるために、既存の制度についてリサーチしたり、議論を経てよりよい意見をまとめることができ、議論の重要性、基礎知識を持つ重要性を実感できたこと。

A 政策について学ぶことができた点や、実際に働く職員の雰囲気や環境を体感できたことが有意義だった。

Q2 公務の仕事の進め方についてどのように思いましたか

<公共政策大学院>

A 個人だけの作業ではなく、同僚や上司と意見を交わしていく中で協力して仕事を進めていく姿が印象的だった。困っている時に周りにアドバイスを求めやすい環境であると感じた。

A 予想していたより柔軟であると感じた。若手でも裁量を持って仕事に取り組むことができる環境だと感じた。

A 地域の人や企業の人など、様々な人の声を聞く必要がある業務が多く、国家公務員だけでは決められないというのは、良い面もあり、業務をする上で大変な面もあると感じた。

<法科大学院>

A 仕事の幅が多様で、スケールが大きくスピード感が必要な仕事だと感じた。また、仕事をしていく上では、例えば何か一つの方向性や政策を打ち出すときに、デメリットや課題を小さなものまで拾い上げて詰めていくことが必要で、多角的な視点と丁寧さが重要になると感じた。

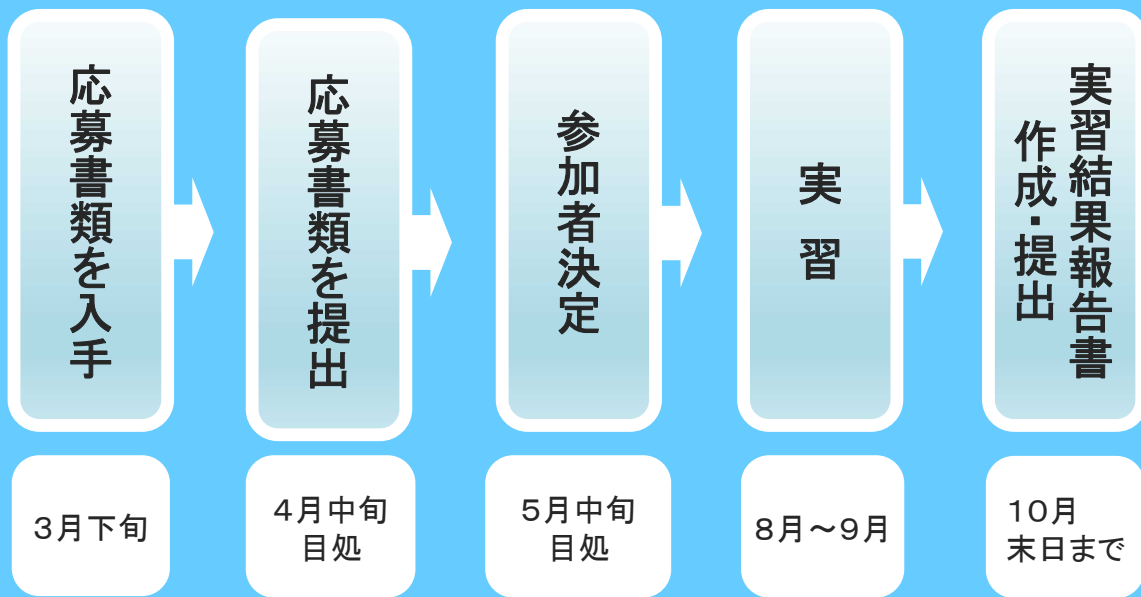
A 思っていたより幅広く業務を行っている印象を受けた。実習先には検察官で出向している方も多く、国家公務員の選択肢の多様さを感じた。

A 政策立案は非常にクリエイティブで、学びになることばかりだった。

応募方法

応募書類の入手・提出は、所属の大学院を通じて行ってください

応募から修了までの流れ



前回(2022年度)の実施状況

霞が関公共政策大学院生インターンシップ

人事院(2人) 総務省(6人) 法務省(2人) 財務省(2人) 厚生労働省(6人)
農林水産省(2人) 経済産業省(8人) 国土交通省(4人) 環境省(3人)

計9府省 35人

霞が関法科大学院生インターンシップ

人事院(1人) 総務省(1人) 法務省(8人) 文部科学省(1人)
厚生労働省(1人) 農林水産省(2人) 経済産業省(7人) 環境省(1人)

計8府省 22人